

教育課程論レポート

締め切り 7月4日（日）午後18時まで

（期限を超えたレポートはいかなる理由があっても受理しない）

提出先 manaba のレポート欄にて（ワードで作成したデータを添付して提出すること）

氏名、学籍番号はレポート中に示すこと。

未提出者ならびに評価がE判定、または項目ごとの評価にC判定が3つ以上ある場合には単位取得ができないので、評価基準表をもとに作成しなさい。

以下の設題のうち、1題を選択し、基本文献を必ず1冊は用いて、2000字以上（註や参考文献の文字数は含まない）で論述しなさい。

（1）教育格差の現状と要因を実際のデータを示しながら1400字程度で説明し、学校現場における教育格差への取り組みのあり方を考察しなさい。

基本文献

橋本俊詔『日本の教育格差』岩波新書、松岡亮二『教育格差』ちくま新書、
増田ユリヤ『新しい「教育格差」』講談社現代新書

（2）デューイの経験概念を説明し、経験と知識の関係性を1500字程度で明確にしたうえで、経験と学校知をつなぐカリキュラムのあり方を考察しなさい。

基本文献

デューイ『民主主義と教育』岩波文庫、
デューイ『学校と社会、子どもとカリキュラム』講談社学術文庫

※カリキュラム案の手掛かりとして、プロジェクト型学習（PBL）、探究的な学び、アクティブ・ラーニングについての文献にさらにあたってみるとよい。

（3）教養教育の役割を民主主義社会、批判的思考力の観点から1500字程度で考察し、批判的思考力をはぐくむ授業のあり方を考察しなさい。

基本文献

マシューズ、鈴木昌訳『子どもは小さな哲学者』新思索社
ヌスバウム『経済成長がすべてか？—デモクラシーが人文学を必要とする理由』岩波書店
※授業の在り方を考える際に、「子どもとの対話」「哲学的教育」などについて示した文献にさらにあたるとよい。

評価基準

E 判定

引用した箇所、参照した箇所で文章中に註が付されおらず、他人の文章を一部でも無断で利用した著作権法違反のレポートは、ただちに単位取得不可となります。他人の文章を利用したにも関わらず、参考文献一覧しか示していないレポートも同様の処分となる。

	A	B	C
文献	指定された文献を用い、かつ、信頼性の高い文献（専門家による出版物）を複数使用できている。	指定された文献を用いてるが、それ以外の文献は信頼性が高いとは言えない文献または、他の文献が1冊程度しか用いられていない。	指定された文献を用いていない。または指定された文献は用いているが、それ以外の情報は wikipedia、コトバンクなどのネット情報が利用されている。
文献の使用	文献を利用し、参考にした箇所、引用した箇所に註が適切に付されており、註の一覧、参考文献の一覧がそれぞれ示されている。註が複数にわたって付されており、他人の文章と自己の文章の区別が明確にされている。	文献を利用しているが、引用した箇所、参考にした箇所がいかにか認められるが、適切に引用がなされているとは言えない。	文献を利用している形跡が文章に認めることができず、引用も参考にした箇所も文章中に示されていない。または引用した箇所、参考にした箇所が極端に少ない。または引用部分が極端に多く、ほぼ他人の文章だけで論述されている。
論述の客観性・論理性	論述が文献などの引用を示しつつ、その引用箇所の解釈を示すなど、客観的に、かつ論理的に論述されている。かつ、誤字・脱字、文法上の間違いがなく、正しい日本語表現、「である」調で、書き言葉になっている。	論述にあたって引用を示して、その引用箇所の解釈を示しているが、その内容が論理的であるとは言えない。誤字・脱字、文法上間違った文章表現が3箇所未満であるが、認められる。である調であるが、時々、「です、ます」調となっている。段落構成がなされており、原稿用紙のルールが守られている。	論述に当たって、文献などの引用を示しているが、その引用だけで文章が終わっている箇所が複数に及んでいる。または、引用がなく、本人の感想を述べている。または、体験談で述べられており、客観性がない。または誤字脱字、文法上間違った表現が3箇所以上認められる。または、「である」調よりも「で

			す・ます」調が中心で話し言葉が3箇所以上、認められる。段落わけがなされていないか、または文頭が一マス空いていない。
内容	課題に対して適切に論述しており、字数も満たしている。内容も十分に納得できる論述になっている	課題に対して適切に論述しているとはいえない箇所が認められる。十分に納得できるとはいえない。	課題に対して論述されていない。論理的に論述が展開されておらず、納得できる内容ではない。

論述にあたって、他人の文章を利用した場合には、その個所を「 」を付すこと（『 』ではない）。例外はあるが、ひとつの引用は1文ないし2文程度が基本だと思ってください。直接その文章を引用していないが、参考にした場合には、同様に必ず註をつけてください。引用したら、引用しっぱなしではなく、その意味するところを別の言葉で解釈しなおして示すようにしてください。

引用を書く順序

書籍 著者名『書名』出版社、出版年、ページ数。
論文 著者名「論文名」『書名』出版社、出版年、ページ数。
翻訳書 著者名、訳者名訳『書名』出版社、出版年、ページ数。

引用の場合

飯尾潤氏によれば、「早い段階から知識そのものを教え込むと、見かけ上は高度な段階にあるように見えながら、後の段階で挫折するというメカニズム」⁽¹⁾が想定されるという。つまり、知識とは、理解を伴わないままに知識を「預金」していくだけの容器でしか、子どもたちがないとすれば、そのことは子どもの将来的な挫折を招来する危険性があるわけである。

註

(1) 飯尾潤『現代日本の政策体系』ちくま新書、2013年、p.240。

文章の最後に註一覧を示します。(1)(2)(3)・・・という順になります。

引用ではなく、自分の言葉で書き直した場合

早期の知識の詰め込みはその後の学習の挫折を引き起こすとの指摘もあるように⁽¹⁾、知識とは、理解を伴わないままに知識を「預金」していくだけの容器でしか、子どもたちがないとすれば、そのことは子どもの将来的な挫折を招来する危険性があるわけである。

(1) 飯尾潤『現代日本の政策体系』ちくま新書、2013年、p.240 参照。